

「バスケ人気の続く黄色い街と宇都宮ブレックスフレンズ」

2024年1月7日（日）B1リーグ 宇都宮ブレックス VS 大阪エヴェッサ
15:10 TO 観衆4423名（前売りで完売） 天候 曇り



↑ 栃木SCと隣同士に並ぶフラッグ（JR宇都宮駅）

↑ コート内

↑ 座席案内した場所



↑ 撤収作業

1、黄色い街・宇都宮

東京2020大会とW杯で脚光を浴びるようになった日本のバスケット界。今回はその中でも、特に人気、実力を兼ね備えた宇都宮ブレックスの活動に行ってきました。

宇都宮を訪れるのは昨年8月の栃木SC以来ですが、JR宇都宮駅東口にはブレックスと栃木SCのフラッグが交互に並んでいます。昨年開業のライトレール（路面電車）の車体も黄色と黒色のツートンカラーで、栃木SCも宇都宮ブレックスも黄色がメインカラーです。ただこれには特に理由はないようです。しかし、同じホームタウンのJリーグとBリー

グのチームカラーが同色ですと、やはり親近感がわきます。(後日、栃木県民の方に伺ったところ、栃木県旗も緑色でどちらかといえば緑色のイメージが強いとのことでした)

2、「ブルックスで元気にしたい」

JR宇都宮駅東口から歩いて15分程度で、ブルックスアリーナ宇都宮(宇都宮市立体育館)に到着です。TOの3時間20分前に集合で、室内用シューズに履き替え、紺色、黄色、白色の市松模様のユニフォームに着替え、ミーティング開始です。最初にクラブスタッフの方から全体の説明、その後ボランティアリーダーの方から詳細の説明がありました。能登半島での地震から一週間目に当たる日でヘッドコーチから「ブルックスで元気にしたい」というメッセージと昨日、今日と募金実施の連絡もありました。

当日の活動人員は20名です。配置は「1Fチケット確認」(2名)「1F席案内」(8名)「2F席案内」(5名)「インフォメーション」(2名)「1F巡回」「2F巡回」「エコ・消毒」(各1名)となっています。「1F巡回」「2F巡回」の方がリーダーです。

ブルックスボランティアは「BREX FRIENDS」と呼ばれています。宇都宮近郊の方が多かったですが、東京や水戸さらには藤沢から来ている方もいらっしゃいました。

3、水戸に続き、座席案内

当日は他に2名の初参加者がいて、総合案内担当のボランティアの方がアリーナ内を案内していただきました。最近のアリーナは1階席と2階席が移動できるところが多いように感じましたが、こちらでは移動はできない構造でした。

入場(開門)開始時間はチケットの券種ごとに、12時40分から13時30分まで5回に分かれているのが特徴で、待機列も券種ごとに分かれています。

私の担当は1階席での座席案内です。ちょうど1週間前水戸で同じ業務を担当していました。水戸では座席案内を聞かれることがひっきりなしでしたが、こちらでは水戸ほど多くはありませんでした。初めて来場されるお客様は少なく、また20代、30代の女性のお客様の割合が高く、小中高生の割合が低いように感じました。

半数以上の方が黄色いブルックスのユニフォームを着ての観戦で、アウェイのブースターの姿はほとんど見かけませんでした。前半終了後のサッカーでいうハーフタイム時にはゴミスタンドで分別の呼びかけ、ゴミ集積場所に片付けを行ないました。

4、ゴミ回収、席番札回収、暗幕の片付け

第4クォーター開始時に全員が集まり、撤収作業の説明がありました。試合終了後は1Fと2Fに分かれ、私はゴミスタンド、テント型パネルの撤収、その後は2階席に移り、各座席の席番札の回収、最後はコート内に降り、暗幕の折り畳みをして18時30分に終了。終礼ミーティングを行ない、グッズ割引券と当日のマッチデーをいただき解散となりました。(マッチデーは見開きになっていて、裏面は応援ボードにもなる優れものです)

設営に関してですが前日の11時から14時にボランティアの方にも協力いただいて、席番表、広告看板設置などの軽作業中心の活動とのことでした。

5、五輪、W杯の活躍でバスケ人気が続くブレックス

五輪、W杯の日本人選手で比江島選手はじめブレックス選手の活躍は記憶に新しいところで、レジェンド・田臥選手の存在もあるブレックス。本日もチケットは完売で最近は何日の試合でもチケットが入手困難とのことで、以前に比べ小中高生が来づらい原因のようです。ラグビートップリーグ（現リーグワン）もW杯直後はこんな状態でした。

J2リーグ栃木SCに比べると、実力だけでなく市民の注目度もブレックスのほうが上回っているとのことです。JリーグとBリーグの両クラブのホームタウンのある街でBリーグのクラブのほうが人気があるのはあまり多くはないと思います。秋田や沖縄もこんな感じなのでしょうか？

6、連帯感の生まれる撤収業務

茨城、渋谷でも同じことがいえるのですが、撤収作業は暗幕を畳むなど共同作業が多いので、自然とコミュニケーションが取りやすくなるのが室内競技を活動する上でのプラス面といえると思います。また作業は見よう見まねで何となくできてしまうものです。

当日は多くのボランティアの方が「体験参加」の私に名前で呼んでいただき、積極的にコミュニケーションを図ろうとしてくれて、とても活動がしやすかったです。

達成感を感じつつ、宇都宮の街を跡にしました。皆さんありがとうございました。